



# 農業景況DIは 2年連続で過去最高値 GAPは認知者3割が 認証を取得意向

—2017年下半年 農業景況調査—

全体の景況感は良好ですが、天候不順で悪化した業種もあります。農業の生産工程管理であるGAPは、大規模経営体ほど認証取得の傾向です。

DI：一五・五→一五・五）ことが要因です（図2）。

業種別に見ると、生産・価格の好調が続く養豚（二六・二→五九・四）やブロイラー（二七・四→五五・三）、作柄も良く販売単価が上昇した稲作（北海道）（▲四・九→三九・七）は景況DIが大幅に上昇し、高水準となりました。茶（二一・一→二六・五）は一昨年まで低迷が続いていたものの、回復基調となりました。一六年に北海道で台風被害のあった畑作（▲一七・六→三四・八）は、大幅に改善しました。

一方、一七年の天候不順の影響で、耕種では稲作（都府県）（二三・

六→一〇・三）や施設野菜（二六・七→一五・〇）、露地野菜（一四・七→七・五）、果樹（二五・六→二一・八）は景況DIが悪化しました。

なお、施設花き（一一・八→▲一〇・六）は大幅に悪化し、マイナスイメージになりました。これは、葬儀スタイルの変化により一部の切り花需要が衰退したことに加え、一七年は天候不順による出荷時期と需要期のずれなどが重なり、市場価格を大きく下げたことが要因とみられます。畜産では、販売単価の下落と素牛価格が高止まりしている肉用牛（五〇・三→一七・五）や、初妊牛価格が高止まりしている中で初妊牛

今回の調査では、景況DIとともに、GAPの取り組みに関する調査を行いました。

## 景況DIの調査結果

### 価格好調で通年DIが過去最高

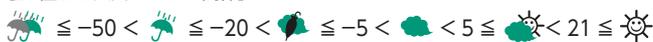
二〇一七年（一～十二月）の農業全体の景況感を示す景況DIは二一・二で、過去最高の一六年（二〇・〇）を一・二ポイント上回り、過去最高を更新しました（図1）。

これは、光熱動力費など生産コスト上昇の影響が見られるもの（生産コストDI：▲一九・一→▲二五・二）、総じて販売単価の好調が維持されていることから（販売単価DI：二六・一→二四・三）、収

図1 農業景況DI天気図

経営部門	2016年		2017年		2018年	
	実績		実績		通年見通し	
農業全体	20.0	→	21.2	↘	8.6	
耕種	稲作(北海道)	▲4.9	↗	39.7	↘	▲10.9
	稲作(都府県)	23.6	↘	10.3	↘	▲1.0
	畑作	▲17.6	↗	34.8	↘	8.9
	露地野菜	14.7	↘	7.5	↗	21.5
	施設野菜	26.3	↘	15.0	↗	27.8
	茶	11.1	↗	26.5	↘	21.8
	果樹	25.6	↘	21.8	↗	26.5
	施設花き	11.8	↘	▲10.6	↗	17.9
	キノコ	1.1	↘	▲2.5	↗	27.5
	畜産	酪農(北海道)	57.6	↘	44.8	↘
酪農(都府県)		52.2	↘	12.6	→	13.5
肉用牛		50.3	↘	17.5	↘	▲3.7
養豚		26.2	↗	59.4	↘	7.5
採卵鶏		40.8	↘	32.7	↘	▲18.2
ブロイラー	27.4	↗	55.3	↘	23.2	

[DI値とお天気マークの関係]



※天気図の見方については、レポートの最後に記載

図2 収支DI、資金繰りDI、販売単価DI、生産コストDIの推移

	収支DI		資金繰りDI		販売単価DI		生産コストDI		
	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	
農業全体	16.7	14.7	15.5	15.5	26.1	24.3	▲19.1	▲25.2	
耕種	稲作(北海道)	▲13.7	43.0	▲2.5	23.8	19.9	54.4	▲24.2	▲18.8
	稲作(都府県)	23.8	2.2	13.5	7.3	33.4	36.0	▲11.5	▲11.2
	畑作	▲24.7	28.1	▲3.3	23.3	▲3.5	▲2.1	▲32.6	▲28.4
	露地野菜	13.1	▲0.9	14.2	2.7	16.5	▲7.8	▲28.9	▲40.0
	施設野菜	20.3	5.6	19.8	11.5	26.0	8.7	▲26.5	▲39.9
	茶	8.1	25.8	4.3	20.2	▲1.3	18.1	▲11.1	▲32.2
	果樹	19.3	12.0	14.7	8.6	34.9	28.0	▲31.3	▲37.3
	施設花き	9.1	▲24.6	7.3	▲5.9	7.3	▲28.6	▲21.9	▲48.6
	キノコ	▲1.0	▲3.8	1.0	7.5	▲18.2	▲11.3	▲22.4	▲28.8
畜産	酪農(北海道)	57.0	36.8	45.7	36.3	79.3	67.8	▲4.9	▲35.2
	酪農(都府県)	48.4	1.7	42.1	16.4	50.7	14.4	▲0.7	▲32.9
	肉用牛	48.6	7.0	34.6	16.9	76.4	17.1	▲37.3	▲41.3
	養豚	19.1	57.9	32.4	55.6	▲15.1	63.6	16.9	12.1
	採卵鶏	44.8	31.9	44.8	31.1	▲12.0	1.7	11.2	▲12.0
	ブロイラー	29.1	55.3	29.1	50.0	▲9.7	37.5	▲4.8	▲16.1

図3 設備投資見込みDI

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	
農業全体	▲21.1	▲31.1	▲12.8	3.6	▲6.8	
耕種	稲作(北海道)	▲20.7	▲47.9	▲11.8	▲2.8	▲9.6
	稲作(都府県)	▲7.8	▲35.1	▲9.9	7.0	▲0.4
	畑作	▲24.9	▲25.6	0.2	8.2	6.4
	露地野菜	▲17.8	▲30.4	▲16.2	1.6	▲10.8
	施設野菜	▲28.5	▲30.8	▲22.9	▲7.4	▲19.6
	茶	▲35.6	▲39.4	▲43.7	▲8.6	▲19.0
	果樹	▲32.9	▲36.6	▲23.6	▲9.0	▲33.0
	施設花き	▲44.7	▲47.4	▲43.8	▲17.8	▲38.4
	キノコ	▲14.0	▲26.8	▲10.3	▲5.4	▲13.6
畜産	酪農(北海道)	▲44.5	▲27.2	▲16.0	7.4	▲7.8
	酪農(都府県)	▲28.3	▲14.4	▲23.4	16.0	▲1.2
	肉用牛	▲27.0	▲17.8	▲0.3	13.6	▲7.6
	養豚	▲1.5	11.8	8.7	24.2	16.0
	採卵鶏	▲20.5	▲7.1	8.0	22.6	22.4
	ブロイラー	▲22.4	▲4.5	11.5	19.4	3.6

の外部導入率が高く、収支・資金繰りの悪化が目立つ酪農(都府県)(五二・二→二二・六)は大幅に悪化しました。

酪農(北海道)(五七・六→四四・八)や採卵鶏(四〇・八→三三・七)は依然高水準にあるものの、DI値が低下しています。

**設備投資の動機は「省力化」**

二〇一八年の農業全体の設備投資見込みDIは▲六・八となりま

した。一七年(三・六)から一〇・四ポイント低下も、最近五年の中では高い水準となっています(図3)。

投資に踏み切る主な動機について聞いたところ(複数回答可)、「省力化・効率化」(七〇・〇%)、「周辺農家の離農による農地などの経営資源の受け入れ」(四一・四%)の回答割合が高くなりました(図4)。

自らの経営改善を図る一方、農業構造の変化に伴い対応が必要な状況に直面していることがうかがえ

ます。なお、「農業政策による後押し」(二八・七%)、「六次産業化」(七・〇%)、「輸入自由化対応」(六・六%)といった回答も見られました。

業種別に見ると、稲作や露地野菜といった土地利用型の業種では「周辺農家の離農による農地などの経営資源の受け入れ」の割合が多く、また、キノコや果樹といった加工に向いている業種では「六次産業化」の割合が多くなりました。

### 先行き「不安」見通しも

農業全体の景況DIの二〇一八年通年見通しは、一七年(二二・二)より一二・六ポイント低い八・六となりました(図1)。

稲作(北海道三九・七↓▲一〇・九、都府県一〇・三↓▲一・〇)は価格の先行き不透明感から悪化し、マイナスに転じる見通しです。生産者からは「先行きが不安」「米価の先が見えない」といった声が聞かれました。畑作(三四・八↓八・九)や茶(二六・五↓二一・八)も悪化し、慎重な見通しです。

採卵鶏(三二・七↓▲一八・二)や肉用牛(一七・五↓▲三・七)が大幅に悪化してマイナス値となり、養豚(五九・四↓七・五)も大幅に悪化する見通しです。これは、価格の先行きを懸念したものと思われまます。

ロイラー(五五・三↓二三・二)や酪農(北海道(四四・八↓二五・二)も慎重な見通しとなりました。

他方、キノコ(▲二二・五↓二七・五)や施設花き(▲一〇・六↓一七・九)は大幅にDI値が上昇し、露地野菜(七・五↓二一・五)や施設野菜(二五・〇↓二七・八)、果樹(二一・八↓二六・五)も改善の見通しです。一七年の天候不順による景況悪化から、価格や生産の回復を見越したものとみられます。

### GAPの取り組みに関する調査結果

#### 大規模ほどGAP取得の傾向

農業の安全生産の証明ともいえるGAPの取り組み状況について聞いたところ、「GAP認証を取得している(四・一%)」と「都道府県やJAなどが策定したGAP(以下、自治体などGAP)に取り組んでいる(一九・八%)」を合わせた二割強の経営体が、GAPに取り組んでいることが分かりました。(図5)

売り上げ規模別では、経営規模が大きくなるほどGAP認証の取得割合が高くなる傾向が見られました。次に、GAPの取り組みによって感じた効果やメリットを調査し

図4 設備投資の目的

		(%)					
		省力化・効率化	周辺農家の離農による農地などの経営資源の受け入れ	農業政策による後押し	6次産業化	輸入自由化対応(TPP・EPAなど)	その他
耕種	農業全体	70.0	41.4	18.7	7.0	6.6	23.1
	稲作(北海道)	72.7	49.4	12.4	4.6	5.7	21.8
	稲作(都府県)	68.4	54.7	17.9	8.0	4.0	19.8
	畑作	81.0	38.2	18.3	3.4	8.0	16.8
	露地野菜	66.9	46.7	14.5	7.4	5.4	24.8
	施設野菜	61.9	37.1	22.3	5.4	3.5	32.2
	茶	80.3	24.6	14.8	3.3	1.6	18.0
	果樹	67.8	41.5	21.2	15.3	4.2	22.0
	施設花き	58.9	32.1	17.9	3.6	1.8	35.7
	キノコ	78.1	21.9	9.4	34.4	3.1	18.8
畜産	酪農(北海道)	66.4	33.6	22.1	5.7	14.8	19.7
	酪農(都府県)	69.0	31.0	31.0	2.6	9.5	18.1
	肉用牛	65.4	34.0	28.3	9.4	12.0	24.1
	養豚	73.3	15.0	20.0	3.3	24.2	28.3
	採卵鶏	77.5	2.8	19.7	11.3	1.4	39.4
	ブロイラー	79.3	6.9	10.3	3.4	3.4	41.4

たところ、「食品事故の予防」(四九・七%)が最多となり、次いで「環境保全への貢献」(四五・二%)、「農作業事故の予防」(四四・六%)の順になりました(図6)。

「販路の維持・拡大」(四〇・六%)と「売上げの向上」(三二・一%)も一定の割合割合となっており、収益への直接的な効果を実感している経営体もあることがうかがえます。

また、「GAP認証を取得している経営体」と「都道府県やJAなどが策定したGAPに取り組んでいる経営体」を比較しました。すると、GAP認証を取得している経営体の方が、特に「労働環境の改善」や「従業員の自主性向上」といった組織運営の改善、また「農作業事故の予防」による経営リスクの低減においてメリットをより強く感じていることが分かります。

### GAP認知者の三割が取得意向

GAP認証を取得していない経営体(GAP非認知者除く)を対象に、今後のGAP認証の取得予定を聞いたところ、「グローバルGAPを今後取得する」(一三・三%)、「ASIAGAP/JGAPを今後取得する」(一八・八%)を合わせた三割強が、今後GAP認証を取

得する意向を示しました(図7)。

一方で、半数近い経営体(四五・七%)が「今後も取得するつもりはない」と回答しています。その理由については、「コストが掛かる」「売上げにつながらない」「認証取得の必要性を感じない」との回答が多くありました。

GAP普及は農政上の重要な課題の一つですが、普及にあたってはGAPのメリットなどについては丁寧な情報提供が必要と考えられます。

(情報企画部 落合智仁)

### 【調査概要】

- 調査時点：方法 二〇一八年一月・郵送調査
  - 調査対象 スーパーL資金／農業改良資金 融資先(計二万二二三六先)
  - 有効回答数 六七一先(回収率三二・五%)
- 【天気図の見方について】  
● 天気図はDI(Diffusion Index)と呼ばれる指標により作成。  
● アンケートの各項目への回答は、「①良くなった ②変わらない ③悪くなった」から一つ選ぶ形式となっており、DIは、前年と比較して「良くなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。  
● DI値に二・五以上の差異がある場合は、上向きまたは下向き矢印。二・四以下の場合は平行矢印。

図7 GAP認証の取得について

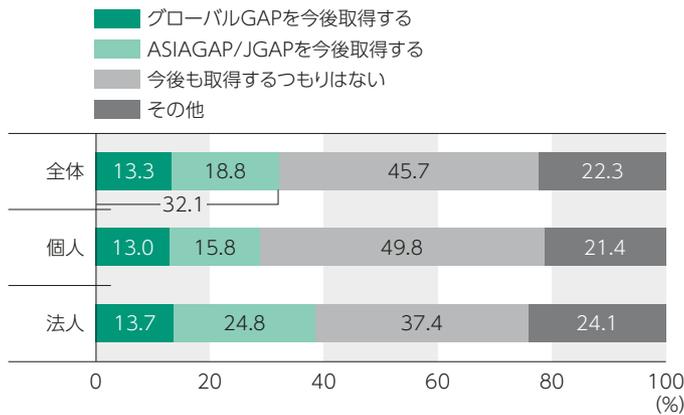


図5 GAPの取り組みについて

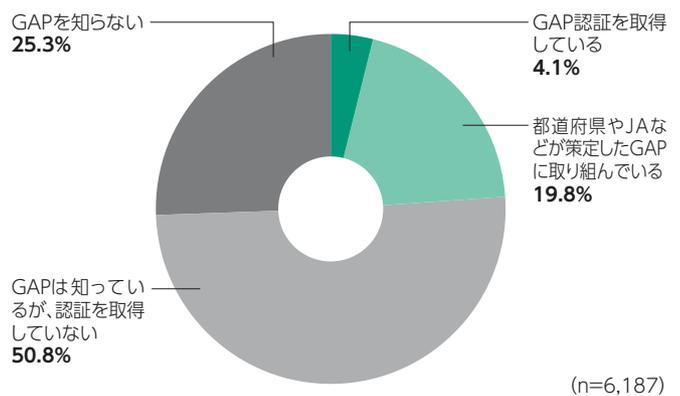


図6 GAPの取り組みによって感じた効果、メリット

	食品事故の予防	環境保全への貢献	農作業事故の予防	販路の維持・拡大	労働環境の改善	売上げの向上	従業員の自主性向上	不良在庫の削減	その他
全体 (n=1,300)	49.7	45.1	44.6	40.6	25.9	22.1	17.2	11.4	8.3
GAP認証を取得している経営体 (n=233)	55.8	43.8	57.5	46.4	46.8	25.8	38.2	15.9	10.7
都道府県やJAなどが策定したGAPに取り組んでいる経営体 (n=1,067)	48.4	45.4	41.8	39.4	21.4	21.3	12.7	10.4	7.8